

科目名	理学療法基礎評価学 I	担当教員	隈元庸夫 小林巧 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------------	------	---------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法専攻	専門科目	選択	2年次	前期	1単位	講義

科目概要	障害像の把握、治療方針の立案および患者の予後予測を行なう上で重要な評価法の中でも、臨床上、評価頻度の高い関節可動域測定と徒手筋力検査法について学習し、科学的な観察力および思考力を身に付けるための基礎とする。具体的には、評価の過程および評価の全体の流れを把握し、四肢・体幹全ての関節の関節可動域および筋力の測定方法について学習し、制限因子や代償動作、日常生活動作との関連について理解を深める。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の過程および全体の流れを理解することができる。</li> <li>2. 関節可動域測定・徒手筋力測定の測定法を理解することができる。</li> <li>3. 関節可動域の制限因子、筋力低下の要因を理解することができる。</li> <li>4. 関節可動域および筋力と ADL の関連を理解することができる。</li> </ol>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	関節可動域 概論	関節可動域測定の目的と方法	関節可動域測定の意義・目的・目標設定・評価の記録の仕方を理解することができる。	
2	関節可動域 各論 1	上肢の関節可動域測定	上肢の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
3	関節可動域 各論 2	下肢の関節可動域測定	下肢の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
4	関節可動域 各論 3	頸部・体幹の関節可動域測定	頸部・体幹の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
5	徒手筋力測定 概論	徒手筋力測定の目的と方法	徒手筋力測定の意義・目的・目標設定・評価の記録の仕方を理解することができる。	
6	徒手筋力測定 各論 1	上肢の徒手筋力測定	上肢の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
7	徒手筋力測定 各論 2	下肢の徒手筋力測定	下肢の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
8	徒手筋力測定 各論 3	頸部・体幹の徒手筋力測定	頸部・体幹の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
評価方法		筆記試験		
教科図書		福田修監修：ROM 測定、三輪書店 津山直一・中村耕三（訳）：新・徒手筋力検査法、共同医書出版社		
参考図書		岩倉博光監修：理学療法評価法、金原出版 奈良勲・内山靖：理学療法検査・測定ガイド、文光堂		
学習の準備		事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと		
オフィスアワー		在室時はいつでも可能		
担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験				